

2021年 3月23日

京成バス株式会社

## 路線バス「新都心幕張線」に 3代目 となる連節バスがデビュー **新型連節バス 3月30日(火) 運行開始！**

**運行区間:幕張本郷駅～海浜幕張駅～ZOZOマリンスタジアム**

京成バス（本社:千葉県市川市、社長:齋藤 隆）では、幕張新都心地区で運行する路線バス「新都心幕張線」（幕張本郷駅～海浜幕張駅～ZOZOマリンスタジアム）において、営業運行開始から3代目となる『新型連節バス』を2両導入し、3月30日(火)より運行を開始します。



3代目「新型連節バス」（愛称:シーガル幕張）

今回で3代目となる新型車両は、いすゞ自動車と日野自動車が共同開発した、国産ハイブリッド連節バスです。設備面では、お客様と乗務員の安全確保のため、「ドライバー異常時対応システム（EDSS）※」を搭載しているほか、通常の路線バス（単車車両）とほぼ同一の運転席レイアウトにより、安全性の向上を図っています。

※ ドライバー異常時対応システム（EDSS:Emergency Driving Stop System）

走行中、ドライバーが急病などで安全に運転できない状態に陥った場合、お客様や乗務員自身が非常ブレーキスイッチを押すことで、減速して停止させる装置。

また、デザイン面は現行車両（2代目）のボディーカラーを踏襲しつつ、前後面および側面上部に当社のコーポレートカラーの帯と、愛称「シーガル幕張」のロゴを付すことで、「幕張新都心の京成連節バス」を表現しています。



（コーポレートカラーの帯と、「シーガル幕張」のロゴ）

新型連節バスの概要は次頁の通りです。

## 新都心幕張線 3代目「新型連節バス」の概要

1. 運行開始 2021年3月30日(火)
2. 運行路線 新都心幕張線（幕張本郷駅～海浜幕張駅～ZOZOマリンスタジアム）
3. 導入車両 日野ブルーリボン ハイブリッド連節バス
  - ・製造:ジェイ・バス（いすゞ自動車と日野自動車の共同出資会社）
  - ・発売:日野自動車
4. 定員 113名（座席38名+立席74名+運転席1名）
5. 特徴
  - ・いすゞ自動車と日野自動車が共同開発した国産連節バス
  - ・「ドライバー異常時対応システム(EDSS)」を搭載
  - ・環境にやさしいハイブリッド仕様
  - ・京成バスのコーポレートカラーを表現する新デザイン



## 路線バス「幕張新都心線」 歴代連節バスのご紹介

### ● 1代目（1998年12月10日～2010年2月18日）

ボルボ社より輸入したエンジン・シャシに、富士重工業（現・SUBARU）で車体を架装した連節バス。一般路線バスでは日本初の連節バスとして計10両が導入され、就業人口が増加する幕張新都心エリアの輸送を担った。



幕張本郷駅前にて撮影



旧・京成バス船橋営業所 茜浜車庫にて撮影

### ● 2代目（2010年2月19日～）

メルセデス・ベンツ「シターロ」シリーズ（製造：エポバス社）のノンステップ連節バス。1代目の代替車両として10両が導入された後、更なる輸送力の増強を図るため5両が増備された。



幕張新都心にて撮影



幕張新都心連携計画事業開業式  
(2代目連節バス出発式/2010年2月18日撮影)

以上